

3 道徳科の評価



(1) 児童生徒の何を評価するのだろうか？

道徳科の目標は、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことにあります。しかし、道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではありません。



では、何を評価するのですか？

道徳性を養うことを学習活動として行う道徳科の指導では、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、評価することが求められます。



そのときに、重視すべき点は何でしょうか？

「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。」そして「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。」これらの点を重視し、道徳科の学習活動に着目して評価をします。



そのために、具体的にどのような工夫が必要ですか？

例えば、

- ・ 児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したもの
- ・ 児童生徒が道徳性を養っていく過程での児童生徒自身のエピソードを蓄積したもの
- ・ 作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程
- ・ 児童生徒が行う自己評価や相互評価などを活用することが考えられます。



(2) どのように評価するのだろうか？

児童生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目標とする道徳科では、観点別評価（観点ごとに ABC の段階を付ける評価）や数値による評価、他の児童生徒との比較による評価は、妥当ではないと考えられます。





では、どのように評価するのですか？

観点別評価や数値による評価ではなく、**記述式**で行います。また、他の児童生徒との比較ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます**個人内評価**として行います。



記述する上で、留意すべき点は何ですか？

個々の内容項目ごとではなく、**大きくくりなまとまり**を踏まえた評価とすることです。そのためには、1単位時間の授業だけでなく、**年間**や**学期**といった一定の時間的なまとまりの中で、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する必要があります。



通知表では、保護者にわかりやすく示すことも大切だと思うので、ある授業における児童生徒の学習の様子や発言などを基に記述してもよいのでしょうか。

学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」の評価に関する記載は、指導要録への記述を前提としたものであり、学校が独自に作成する通知表について示したものではありません。ただし、一般的に指導要録と通知表は連動したものであることを考慮すれば、基本的な考え方は同じだと言えます。その点を踏まえた上で、通知表については、ある授業において特に顕著であると認められる児童生徒の状況や様子を取り上げることもあり得るでしょう。その際には、具体的に内容項目を示すのではなく（個別の内容項目の評価はしないので）、教材名を挙げて記述するのが望ましいと思われます。



その他にも・・・



- ・発達障害等のある児童生徒が抱える**学習上の困難さ**の状況を踏まえた指導及び評価上の配慮を行うこと。
 - ・海外から帰国した児童生徒や日本語習得に困難のある児童生徒等についても、一人一人の状況に応じた指導と評価を行うこと。
 - ・また、道徳科の評価は**調査書に記載せず**、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにすること。
- などの点に留意してください。